

ど
ん
ま
吞馬先生

海を描く



◆房州太海

野間仁根

N O M A H I T O N E

2019年7月6日(土)~2019年9月29日(日)

野間仁根  バラのミュージアム

〒794-2103

愛媛県今治市吉海町福田1290番地

TEL/FAX (0897)84-2566

休館日 ◆ 月曜日(祝日の場合は原則翌日)

開館時間 ◆ 9:00~17:00(入場は16:30まで)

入館料 ◆ 一般:300円・学生:150円

◆ 高校生以下または18歳未満無料

※ 団体(20名以上)・65歳以上の方は2割引

※ 障害者手帳をお持ちの方、その介護者1名は無料



野間仁根 バラのミュージアム

<企画展>

～呑馬先生 海を描く～



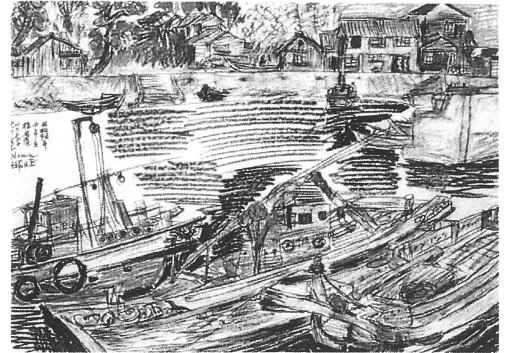
2019年7月6日(土) ≫ 2019年9月29日(日)



瀬戸内海 日の出



房州太海



棕名港

呑馬先生とは、野間仁根が半架空の人物として設定した自身のことである。仁根が無類の釣り好きであったことは、新聞や雑誌の随筆にたびたび自らの釣りの体験談や魚の話を取り上げるなどしており、俳句・俳画に比べると、比較的広く知られている。昭和37年には『呑馬先生釣日記』という著書まで出版している。仁根自身、釣りは中学に入って覚えたというが、交流のあった方々の証言では、釣りに関してはあらゆる知識と技法を身につけていたようで、また時に画業そっちのけで没頭する『釣日記』の記述からも釣りが「第二の本業」と呼べるようなものであったことがうかがえる。島育ちの彼にとっては「趣味」と言うようなレベルではなく、日常生活の一部であった。特に疎開中の8年間は釣りと写生の毎日であったと言う。創作活動と直結していたという点では、仁根にとって釣りと画業は切っても切れない関係にあった。《長井健：「野間仁根の文人性について」より》そんな呑馬先生こと、釣り名人の野間仁根が描く瀬戸内海・外房州の風景を展示いたします。「風景を描くなら故郷を描け」と言い、風景画の大半を占める瀬戸内海の絵は仁根が晩年に描いた作品です。また、第二の故郷と言った外房州も多く描かれています。躍動感あふれ、力強く、鮮やかに描かれた作品をどうぞご覧下さい。

展示室2 ↓




展示室3 ↓



館内インフォメーション

- 展示室1 ⇒ 貸館対応室
習い事教室、趣味の展示会など
にお使い下さい。
- 展示室2 ⇒ ふるさとの暮らし
古き時代の生活用品、農具などを
展示。
- 展示室3 ⇒ 郷土のあゆみ
大島に現存する神社でいちばん
古いとされる田中神社ゆかりの
展示。

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町福田1290番地 TEL/FAX0897-84-2566

野間仁根  バラのミュージアム (今治市吉海郷土文化センター)

■ 広島県尾道市側から

[自動車] ◆ 尾道IC/福山西IC松永・尾道バイパスを経由してしまなみ海道：大島北ICから約10分

[バス] 広島バスセンターまたは福山駅前からしまなみライナーにて大島BS下車・乗換
島内路線バスにて「幸」さいわい下車・徒歩10分

■ 愛媛県今治市側から

[自動車] ◆ しまなみ海道：大島南ICから約10分

[バス] 今治駅から特急(または急行)バスにて「吉海支所」下車徒歩15分

